

山縣二承の生涯と作品

日本叢史学会 佐藤 聖

【目的】

世の中では、富岡鉄斎、青木木米、村上鬼城の作品がよく知らされているのに、山縣二承の作品はあまり見かけない。その作品の所在を明らかにする為に調査したいと思った。

【生い立ち】

山縣二承（やまがたじしょう）

通称を虎蔵といい、老いて書畫介と名乗った。号は二承または龍耳庵とする。

文化8（1811）年生まれ。月日は不詳。両親を早くに亡くし祖母に育てられたが、生来病弱多病の為、聴覚を失った。画を山田雪塘に学び、後に岸駒に学んだ。俳句、狂歌を残している。

明治12（1879）年1月10日歿。69歳。残念ながら、今のところ肖像は発見されていない。

【作品】

平成4（1992）年11月1日～12月27日に企画展「絵と俳諧 山県二承展」が広島城にて開催され、多くの作品が展示された。既に絶版となった「絵と俳諧 山県二承展」書は展示解説図録によって、50余点の作品が掲載されており、広島県立図書館・広島市立図書館でも閲覧できる。また国立国会図書館にも納本されている。

上記の企画展の為、出品に協力した所蔵者の安否が気になるし、間違えて廃棄・紛失されてしまう恐れがあるので、心ある人々はそれを心配している。『美術ひろしま2004』を観ればわかるが、少なく紹介されている。

広島市編『図説広島市史』書の表紙は、二承作の「塚本町雑踏之図」を採用しているが、その中に幾つか紹介されている。しかし全体が見えていないことが残念である。

広島県立歴史博物館に所蔵されている作品は次のように確認できた。

「聖崎図」

「宮島大鳥居図」

「宮島火焼前図」

「宮嶋雪の景」

「山縣二承自画書」

しかし常時展示していないので、注意して頂きたい。

他に所蔵されているところがあるかもしれないので、埋もれた作品がひとつでも多く発掘されることを願い、今後も調査を続けていきたいと思う。作品の所在について情報をお持ちの方がおられましたら、是非ご教示をお願いする次第である。

【参考文献】

叢画人二承

図説広島市史

芸備先哲伝

美術ひろしま2004

絵と俳諧 山県二承展